

ICT時代の社会的文脈のなか での学習指導学

佛教大学教授
NPO法人学習開発研究所代表
西之園晴夫

社会の情報化は人類に幸福をもたらすか

- インターネットは社会の表と裏を映し出している
 - 裏社会へ誰でも参加できる．原爆製造から麻薬まで
 - 茶の間や勉強部屋に入ってきた犯罪，ポルノ，出会い系
 - 一部の学生のインターネットのイメージは
ブラックホール，落とし穴，便利であるが恐ろしい

 - ICT活用に関心のない人をどのように説得するか
 - 社会的問題解決への参加と研究方法
 - ICTの教育的活用を社会的文脈で評価する
 - 教育行政を先導する課題への取り組み
-

自律協調学習と課題解決

■ 実際の問題解決の事例を教材とする

- ビジネスの世界規模化、地域社会の活性化、専門職の高度化
- 地球温暖化、食糧問題、民族問題、少子化問題
- プロジェクト方式による自律協調学習

■ 協調学習の課題

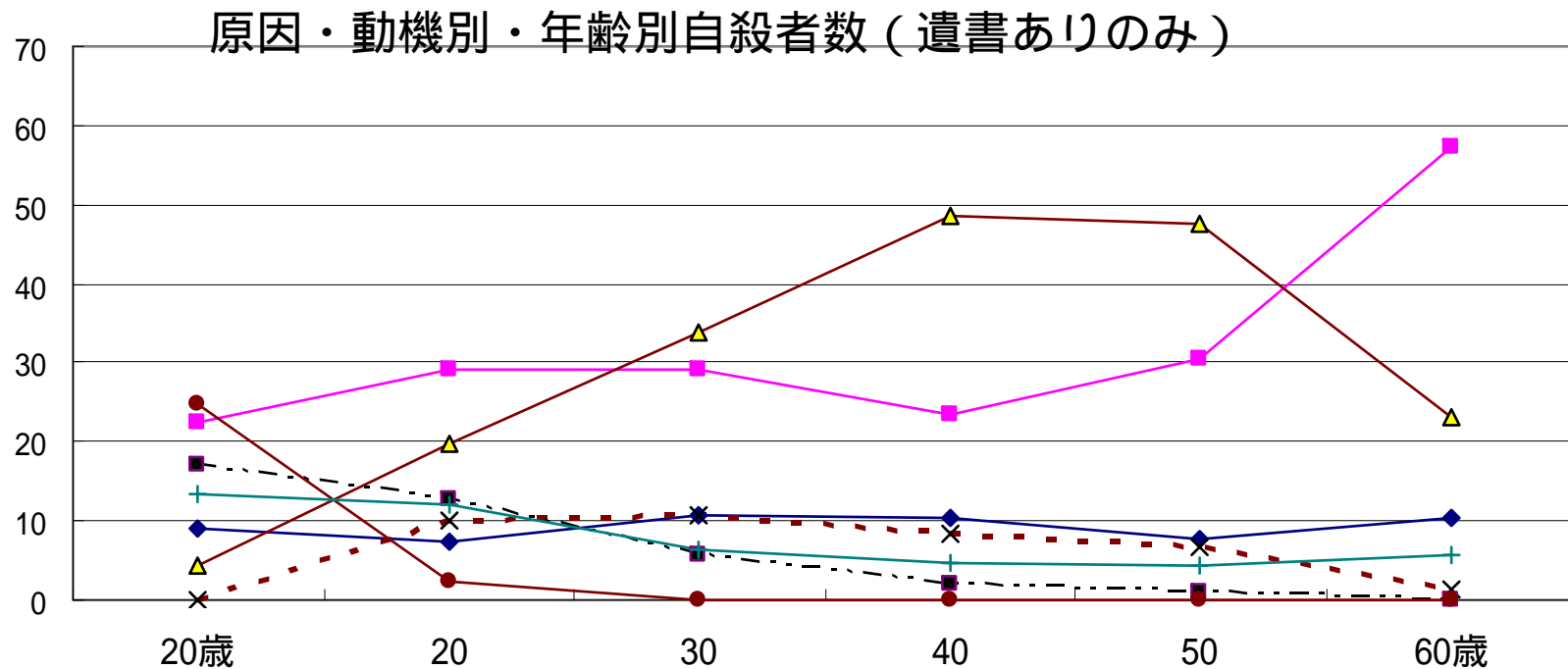
- チーム学習の枠組みの理解と協働できる能力の開発
- 共同開発などの基本理念 (Concept) が前提
- 「学習する組織」としての共通理解 (Metaphor, Image) が前提

■ コミュニケーションの問題

- チャットの活用では参加者の入力スピードの格差が大きい
 - テレビ会議システムでは受講者のIT環境と時間調整の問題
 - 職場で学習する場合にはファイアウォールが障害
 - 家庭ではパソコンの機種による制約がある
-

わが国の自殺者の特異性

セイフティーネットの立ち遅れ

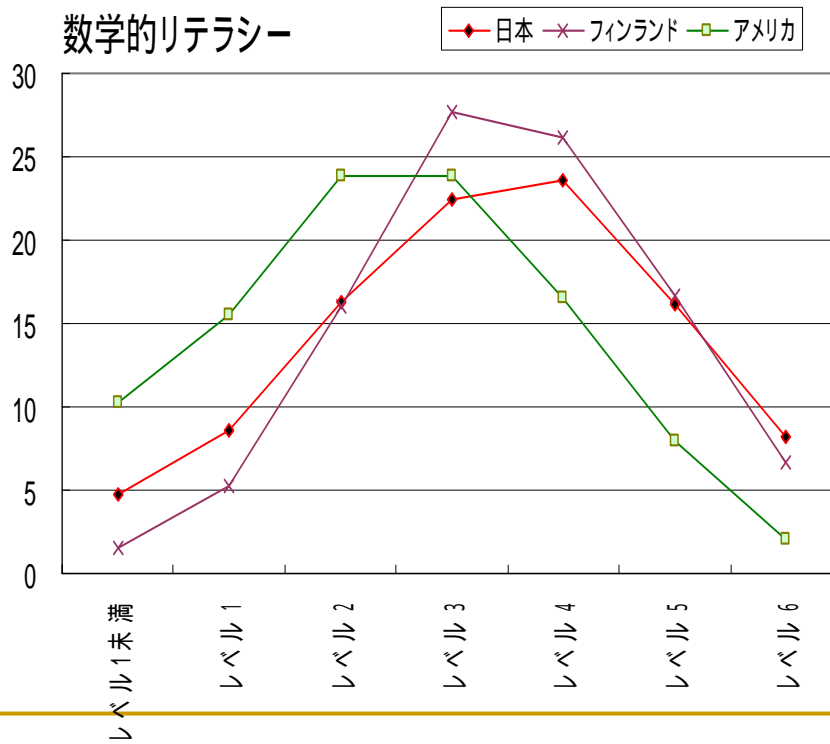


（資料）警察庁「平成15年中における自殺の概要資料」

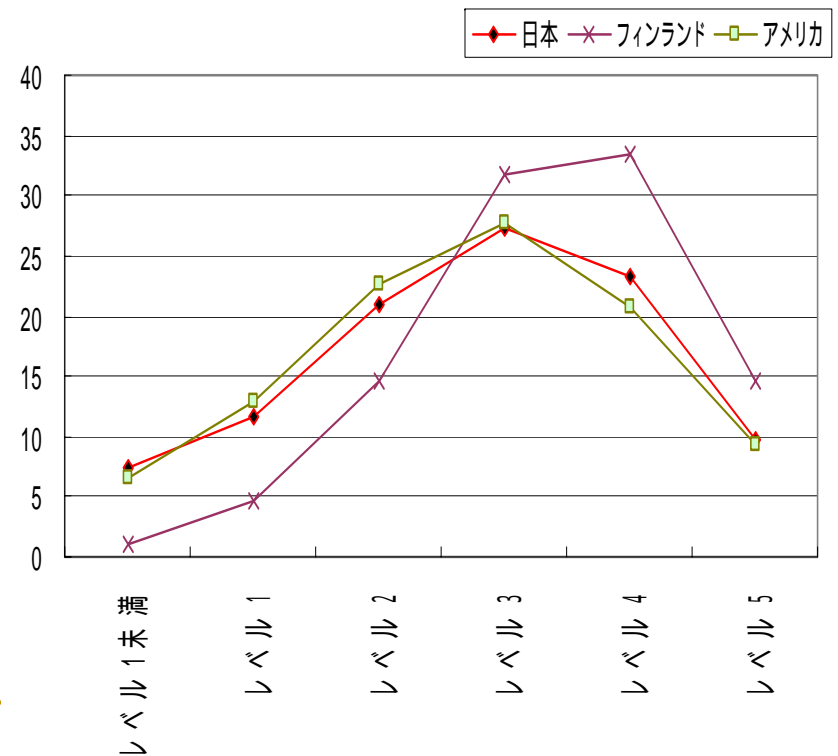
わが国の学力格差の特徴

低位学習者への配慮の弱さ

数学的リテラシー



読解力における習熟度レベル別の生徒の割合



変動社会における社会の階層化

■ 学力分布のふたこぶ化

清水睦美：教科領域別の学習到達度の変化(中学校編)

苅谷剛彦・志水宏吉編「学力の社会学」、57-76ページ

■ 社会階層による学力問題

総合的な学習 = 社会階層上位グループに有利

学習者の内側が外側よりも学習問題解決のターゲット

苅谷剛彦：「学力」の階層差は拡大したか

上掲書 127-151ページ

社会的問題の文脈に適した学習開発

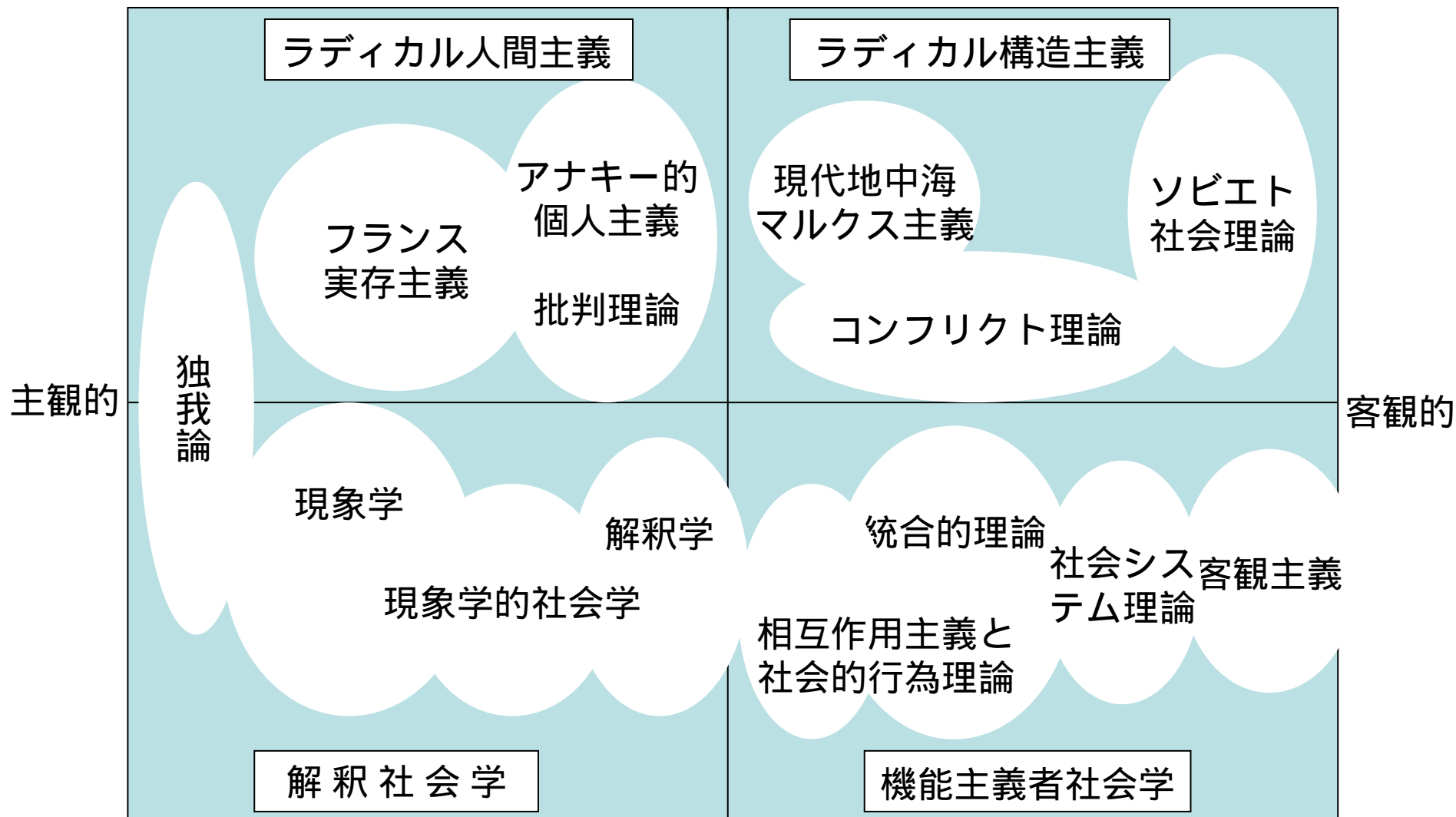
- 自律協調学習に従来の学習指導の枠組みは有効か
 - 教える人を前提としない組織学習 = 学習開発専門家
 - 誰もがどこでも学習 (universal and ubiquitous learning) している社会
 - 身近な図書館, 博物館, 美術館での最新知識の学習
-

E D E N (European Distance and E-Learning Network) 2005 at Helsinki

- Batesのグラフ
- Wurzburgのグラフ



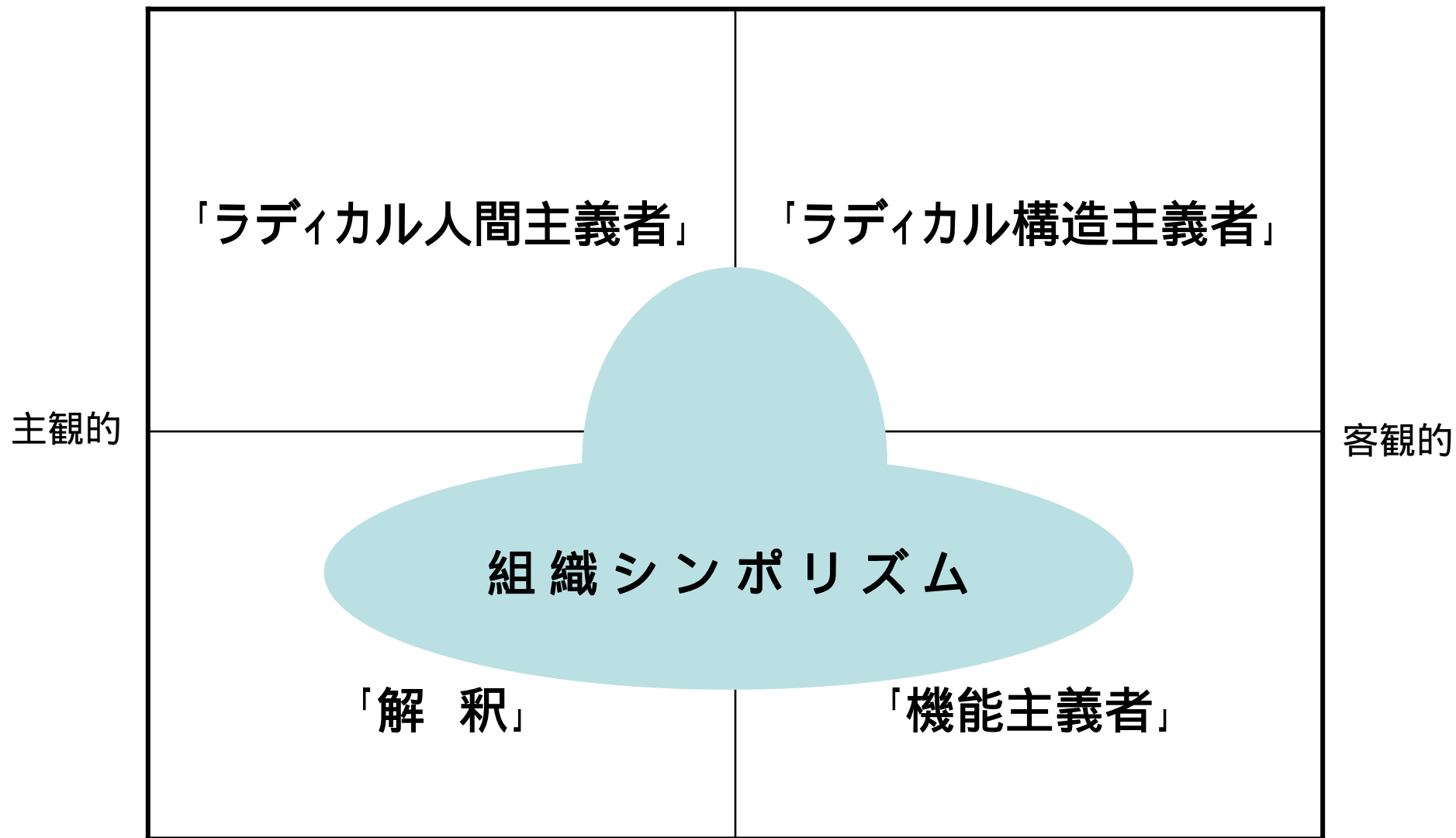
ラディカル・チェンジの社会学



レギュレーションの社会学

出典：Burrell & Morgan(1979) 高橋正泰訳

ラディカル・チェンジの社会学



レギュレーションの社会学

組織シンボリズムの位置づけ

出典：高橋正泰

ICTを活用した教育の評価指標について

- 変動社会での生活の安定化と**学習の機会**
 - **多様な学力伸長**を促すICT活用の評価
 - **多様な学習者の背景**に対応できる**学習指導**
 - **社会的経済的格差**への配慮
 - **社会的問題**への取り組み
-

共同開発の枠組みと手順

- 基本理念(Concept): 開発における共有ビジョン
「教育方法学」の授業を自律協調学習として開発
 - 隠喩(Metaphor): なじみ易いほかの技術などを喩えとして共通理解を図る
醸造技術に喩える
 - イメージ(Image): 共通理解を図るために図式表示などで表現する
 - モデル(Model): 開発のためのガイドとなる
MACETOモデル
-